

統計調査の結果から野々市市の産業の未来を考える

～野々市に目立つ産業を作る～

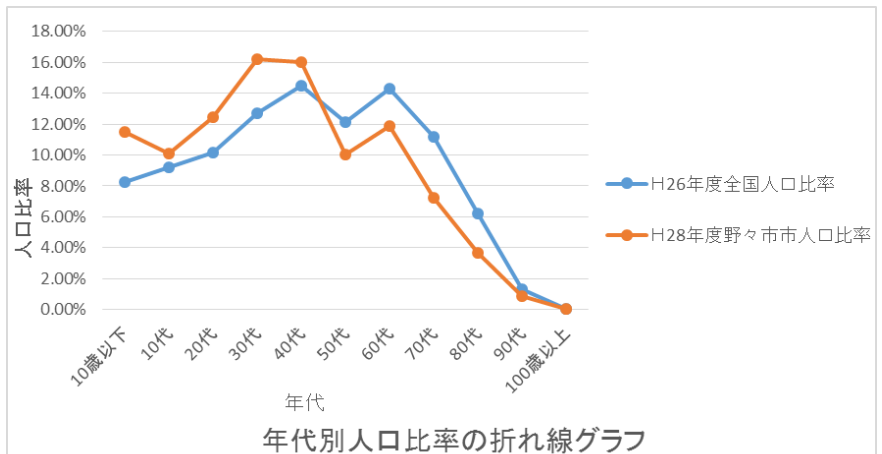
2016年度
プロジェクトデザインⅡ
FS302-4
タナボタエレジー
赤坂琢哉, 伊藤吉晃
北岡克彬, 高柴都嘉
関祐輝

はじめに

企業は第二次産業を主に海外への進出が激しく空洞化は止めようがない。野々市の第三次産業という強みを生かす方向に進めてみた。

調査結果

野々市市の年代別の人口の比率として、50代以下は全国に比べ多いことが分かった。特に30代の人間が多い。逆に50代を過ぎると割合が全国よりも下回った。



調査結果を受けて

野々市市の人口で最も多い年代は30～40代であった。恐らく金沢方面に職を持った人間が家を持ち定住していることが理由として挙げられる。そして30～40代の人たちは今後も野々市に残るだろうと考えられる。



野々市市の今の需要

30～40代は子育て世代である。

小学校(1万人当り)

野々市	全国
-----	----

1.0	2.717
-----	-------

中学校(1万人当り)

野々市	全国
-----	----

0.4	1.495
-----	-------

教育サービスが充実していない。



今後の需要

教育サービスの充実により30～40代の定住が見込まれる。これにより今後は30～40代が高齢者となり高齢者向けサービスへの需要も高まると思われる。

まとめ

教育分野を充実させよう。
今後を見込んで老人向けサービスを充実させる必要がある。